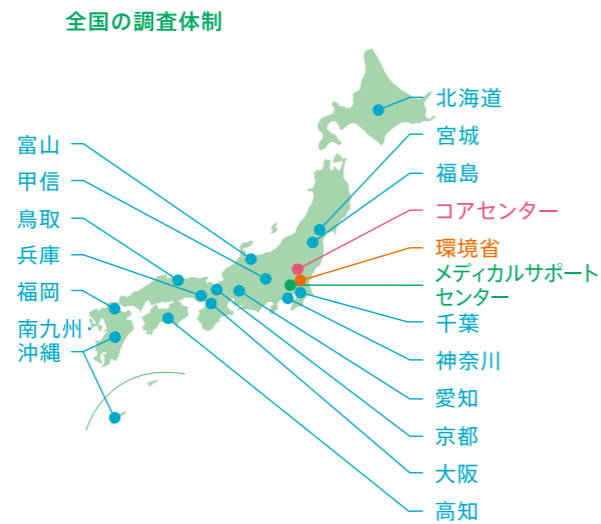


全国15の地域で進行中です!

コアセンター(国立環境研究所)、メディカルサポートセンター(国立成育医療研究センター)を中心として、全国15か所に拠点としてのユニットセンターを設置し、進めています。また、医療機関、自治体、教育機関等からのご支援もいただいています。

参加者の方々には結果をお知らせし、育児等の相談があった場合には、状況に応じて専門医療機関や相談窓口を紹介するなど、専門の医師やスタッフがサポートしています。



子どもたちは、
あしたの地球を生きてゆく。



子どもの健康と環境に関する全国調査

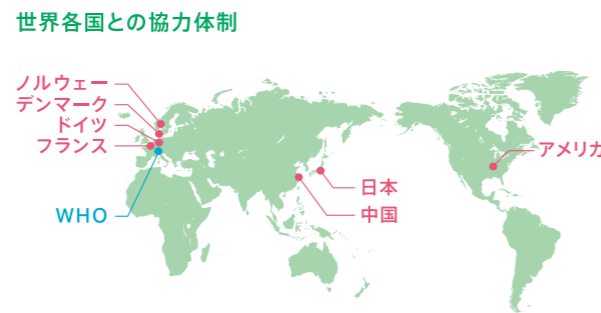
エコチル調査

参加者の皆さんの声

- 質問の中には実際に子どもにさせてみないと答えられない項目があり、「できるのかな」と思いながらやらせてみると、意外とできてびっくりします。子どもの成長を感じられる事が良かったと思います。(熊本県在住 Tさん)
- エコチル調査は全国規模で行われている調査なので、それぞれの地域性とか特色なども分かるかもしれないと期待しています。結果を楽しみにしています。(山梨県在住 Tさん)
- わが子の将来や未来の子どもたちに役立つ調査にするためには1人1人の回答が大切だと思い、忙しくても、質問票に回答するようにしています。これからもしっかりと研究していただきたいと思います。(千葉県在住 Yさん)

国際的にも注目されています

2016年5月に開催されたG7富山環境大臣会合において、子どもの環境保健に関する長期的で大規模な疫学調査の一つとして、このプロジェクトは高く評価されました。世界各国で行われている子どもと環境に関連する調査との連携体制を整えています。



もっと知りたい方へ

環境省エコチル調査ホームページ
<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>



お問い合わせ先

環境省環境保健部 環境安全課環境リスク評価室
〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2 中央合同庁舎5号館
TEL **03-3581-3351** 代表 (内線6343)



エコチル調査は、2010年度に環境省が始めた大規模な国家プロジェクトです。環境中の化学物質が、子どもの健康にどのように影響するのかを明らかにし、「子どもたちが安心して健やかに育つ環境をつくる」ために実施しています。



なぜ調べているの？

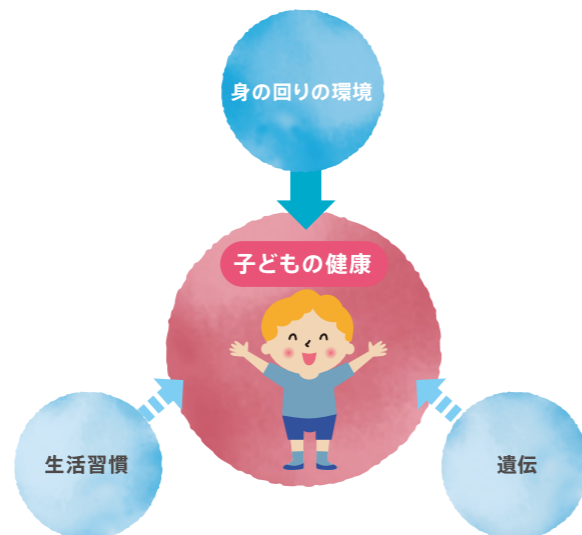
① 私たちをとりまく環境中には「化学物質」が含まれています

科学技術の進歩に伴って、私たちの身の回りには人工的に作り出された「化学物質」を含む製品が増え、それらを利用して生活しています。一方で、こうした化学物質が人々の健康にどのような影響を与えるのか、まだ詳しくわかっていません。特に胎児や子どもは、化学物質の影響を受けやすいのではないかと懸念されています。



② 環境が子どもたちの健康に与える影響を解明します

近年、子どもたちの間でぜん息やアトピーなどのアレルギー疾患や肥満、発達障害などが増加傾向にあります。それらの多くは、身の回りの環境、食事や運動といった生活習慣、遺伝的な性質などが関係しあっているといわれています。このプロジェクトは「身の回りの環境」に注目し、何が子どもの健康に影響しているのかを明らかにしようと、2010年度に始まりました。



このプロジェクトをもとに、環境によって起こる病気を予防するための政策をつくらしたり、子どもが健やかに育つための環境を整備したりすることができます。今の子どもたちだけでなく、未来の子どもたちにとっても大変重要な国家プロジェクトです。



どんなプロジェクトなの？

胎児期から長期に渡って追跡します

全国10万人の妊婦さんにお話し、生まれたお子さん、そしてお父さんにも協力していただいています。提供していただいた血液・尿・母乳・毛髪・乳歯等から、環境中の化学物質の体内へのとりこみ量などを調べ、定期的な質問票調査で、お子さんの健康状態や生活習慣などを調べています。10万人ものお子さんに参加いただくのは、まれに起こる珍しい病気の要因や様々な病気を引き起こす原因まで明らかにするためには、参加人数が少ないと十分な検討ができないと考えられるからです。

専門家の意見を踏まえて令和5年3月にエコチル調査基本計画が改定され、13歳以降も調査が継続されることになりました。

エコチル調査基本計画
<https://www.env.go.jp/chemi/ceh/about/advanced/document.html>



5000人のお子さんには、1歳半のときから、より詳しい調査にも参加していただいています。

- ご家庭を訪問し、環境中の化学物質を採取したり、ハウスダストなどを調べます。
- お子さんの発達検査を行います。
- 医師による診察や、身体測定、血液検査などを行います。



どんなことがわかってきたの？

化学物質の影響について徐々にわかってきているところです。これまでの調査によって、例えば以下のような研究結果が発表されています。ホームページでは、調査からわかってきたことを随時、公開していきます。

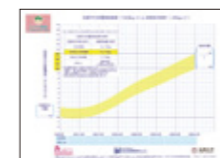
妊娠中の喫煙がお子さんの出生体重に与える影響

タバコを吸ったことのないお母さんから生まれた子どもに比べて、妊娠中もタバコを吸っていたお母さんから生まれた子どものほうが、生まれた時の体重が少ない傾向にあることがわかりました。

社会での調査成果の活用も始まっています

[例] 妊娠中の体重増加曲線 (妊娠前BMI別)

妊婦(約10万人)の健診情報を用いて作成



出典: 国立成育医療研究センター
 ホームページプレスリリースより(2021年9月28日)
<https://www.ncchd.go.jp/press/2021/210928.html>

食物アレルギー診療ガイドライン2021

子ども(約9万人)の免疫アレルギーについて集計した論文を引用



出典: 日本小児アレルギー学会作成、海老澤元宏、他監修、食物アレルギー診療ガイドライン2021、協和企画、2021